

クリスチャンはなぜ洗礼を受け教会の礼拝を毎週守るのでしょうか？

## 答#1 勝利の生活を送るため

「救いについて」のページで既に説明したように、論理的・教理的には、人は「聖書の福音」を信じ続けるだけで天国に行くことができます。しかし、実際的には、洗礼を受けず、教会の礼拝を守ることなく、人生の最後まで「聖書の福音」を信じ続けることはとても難しいことです。又、イエス・キリストは復活して天に戻られる前に、「**あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマ（＝洗礼）を受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らに教えなさい**」と弟子たちに命じられました。これは「神の子」としての権威あるイエス・キリストの命令です。しかも神の子キリストはご自分のいのちを代価として人の罪の贖い（買戻し）をなされました。それで、「**キリストの弟子**」となる者は必ず洗礼を受けなければなりません。

更に、聖書の中には「**洗礼を受けなければ救われない**」と教えていると解釈できるような箇所が幾つかあります。それで、これらのことから、洗礼を受けるまではクリスチャンではない（＝天国に行けない）と理解する教会や教派もあるのです。その見解があることも当然尊重すべきだと思います。しかし、最も大切なことは、「**キリストの命令**」を守るなら、**素晴らしい人生**を送ることができるからなのです。

クリスチャンが毎週日曜日に教会の礼拝に行くのは、神が万物を6日間で創造し7日目に休まれたことがその出発点です。創世記2章3節には次のように書かれています。「**神は第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。**」神はまた、人間の歴史の中で、イスラエル民族を特別に選び、その歴史を通してご自分の存在とご性質と力を当時の世界に明らかにされました。そして、イスラエル民族には、7日目を「**安息日**」として必ず休まなければならない。休まないなら「**死刑**」になると言う厳しい「**律法**」を与えました。それで、イスラエル人は7日目（土曜日）を絶対厳守で「**安息日**」として守りました。敬虔なユダヤ人は今でも毎週土曜日を「**安息日**」として厳格に守っています。

しかしクリスチャンにとっては、イエス・キリストがご自分の十字架の業（わざ）により「**律法**」を終わらせましたので、「**安息日を守る**」ことは**絶対厳守**ではなくなりました。とは言っても、「**律法**」が与えられる前に、即ち万物の創造の時に神が定められた「**安息日の聖と祝福**」は永遠に変わりません。そして、最初のクリスチャンたちはキリストの復活を記念して「**安息日**」を「**主日**」（キリストの日）と呼んで、キリストが復活された**日曜日**に集まって神を礼拝するようになりました。その時間帯と内容は歴史の中で変化して行きましたが、日曜日に礼拝することを基本とする姿勢は今も全世界でずっと続いているのです。神は常にこの「**聖なる日の祝福**」にクリスチャンを招いておられます。「**主日**」を「**聖なる日（聖日）**」として守るのはクリスチャンの**特権**なのです。それで、日曜礼拝は「**絶対厳守**」

ではありませんが、クリスチャンは神が定めた「聖なる祝福される日」として積極的に礼拝を守っているのです。

しかし、クリスチャンが洗礼を受け、教会の礼拝に行くのは、更に、もっと積極的には、残りの人生で**勝利の生活**を送るためです。「**キリストの命令**」を守る結果与えられる**素晴らしい人生**は、実はこの**勝利の生活**のことなのです。**勝利の生活**は二つの面があります。一つは**霊的な面**で、もう一つは**実際的な面**です。

### 霊的な勝利の生活

これは簡単に言えば「**罪を犯さない生活**」です。すべてのクリスチャンは、「**聖書の福音**」を信じた時に、神の前に、人生の**一生涯の罪**（過去・現在・未来の全ての罪）が赦されます。しかしこれは、全く罪を犯さなくなるわけではありません。確かに、クリスチャンになる前よりは罪は少なくなります。逆に、心に住んでおられる**ご聖霊**が聖書の言葉を通して罪を明確に示されますので、罪を犯す自分の弱さを感じ、新たに苦しむ面も出てきます。

又、**ご聖霊**が心に住んでおられることは既に「**永遠のいのち**」を持っていることとなりますので、**ご聖霊**は、その「**永遠のいのちへの水**」（**ご聖霊の賜物**）が心の中で泉のように湧き出て、本来人間が造られた時の「**完全な状態**」に戻るよう働きかけます。そして人生において多くの「**御霊（ご聖霊）の実**」を实らせようとします。「**御霊の実**」の代表的なものは、**愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制**です（ガラテヤ 5: 22, 23）。しかし一つの罪（例えば嘘をつく等）を犯すとその分「**いのちへの水**」の湧き出る量が減り、多くの罪（例えば喧嘩や不品行等）を犯すと更に湧き出る量がずっと減り、そのまま罪を犯し続けると、「**いのちへの水**」がなかなか湧き出なくなり、**ご聖霊**による「**助け**」を無くして再び信じる前の「**滅び（敗北）の人生**」に逆戻りし、色々な面で神に受け入れられる正しい力を出し切れなくなります。

「**滅びの人生**」とは、地上では、その最も悲劇的なものが、例えば酒や麻薬やギャンブル中毒のように、そのすべての言動と健康状態において、本来あるべき人生とは全く逆な結果（ボロボロの人生）を歩んでしまうような生き方です。多くの教会は、このような「**滅びの人生**」のを歩むクリスチャンは、信仰を捨てており、神の救い（**罪の赦しと永遠のいのち**）を失い、死後に神のさばき（「**永遠の滅び**」）を受けると聖書は教えている、と理解しています。この可能性も否定はできません。

それで、罪を犯さないように歩むためには、先ず、人前で**信仰告白**を明確にして、**キリストの弟子**として歩むことを表明し、他のクリスチャンと「**神の家族**」としての交わりと励ましを受け、教会の礼拝で**聖書のことば**（即ち「**神のことば**」）を聞き学んでゆく中で、**ご聖霊**の助けを得て罪を犯さないように元気づけられる必要があるのです。この「**人前で信仰告白を明確にしてキリストの弟子として歩む決意を表明する**」ことが洗礼を受けることなのです。「**救いについて**」のところでも既に述べたように、人は、「**聖書の福音**」を信じた時に既に「**天の教会**」に登録されているわけですが、洗礼を受ける時に「**地上の教会**」（洗

礼を受けた教会)に会員(家族)として登録されると見ることができます。そして多くの教会がそのように理解しています。それで、引越し等で教会を移る時は住民票のように登録を変更し、引越し先の教会の「転入会式」によって新しい家族の一員となります。

「霊的な勝利の生活」は「罪を犯さない生活」として悲観的に捉えられがちですが、実は神が与える**愛、喜び、平安**など「御霊の実」が最大限に与えられる、又増し加わる実に素晴らしい生活なのです。どんなにいじめられても**人を愛する**ことができ、どんなに辛いところを通っても**喜ぶ**ことができ、どんなに危機的なところを通っても**心には平安がある**と言う、信じられない**神の力**が心に住んでくださる**ご聖霊(内住の御霊)**によって力強く働くのです。「**いのちへの水**(ご聖霊の賜物)が**心の中で泉のように湧き出る**」とはまさにこのことです。しかし、罪を犯すとその分だけ神が与える**愛と喜びと平安**などが心の中で減ってしまうことになるのです。

### 実際的な勝利の生活

これは簡単に言えば「**全ての面で本来人間にあるべき人生を送る**」ことです。即ち、罪が入ってくる前の「**完全な人間**」としての人生を送るようになることです。心の中の罪が完全になくならない限り、残念ながら、誰一人としてイエス・キリストのように「**完全な人としての人生を歩む**」ことはできませんが、**内住の御霊**の力によりクリスチャンは自分の人生で「**いのち**」をほぼ完全に、しかも正しく出し切るように歩むことが可能なのです。別の表現をすれば、これは「**既に持っている『永遠のいのちへの水』がすべての面で完全に湧き出る**」ことです。

聖書が教える「**永遠のいのち**」は永遠に長く続くいのち(時間)と同時に、いやそれ以上に、その「**質**」、即ち「**神が持っているいのち**」に重点が置かれています。その「**質**」に焦点を置くとき、「**永遠のいのち**」を「**完全ないのち**」として読み替えてみたら分かりやすいと思います。例えば、二人の十代の若者がいて、一人はよく食べよく学び、学校でも家でも勉強もスポーツも全力投球で能力をすべて発揮し、生き生きとした可能性のある未来に向かって生活しています。周りの人も元気をもらいます。もう一人は家に引きこもって全く出て来ず、食事も片寄り、学校にも行かず自分の能力を全く発揮していません。周りの人からは「若いのにもったいない」と心配されています。この二人の場合、どちらがその時点で**自分のいのち**を完全に出し切っているのでしょうか。

「**完全ないのち**」は**自分のいのち**を十分に出し切ることで、それにより自分に与えられた能力と賜物を最大限に出して人生を歩むことになるのです。「**永遠のいのち**」を持っているクリスチャンはそれを「**完全ないのち**」として十分に発揮する**可能性**を持っています。**内住の御霊**はそれを実現させようと励まします。それを阻むのが「**罪**」です。心の中に罪の量が増えるとそれだけ「**完全ないのち**」から遠ざかることになるのです。それで、この意味でも、「**霊的な勝利の生活**」のところで述べたように、できるだけ「**罪を犯さない**」ように歩むために洗礼を受け、積極的に教会生活(日曜礼拝を守る)を送るのです。

「完全ないのち」のもう一つの面は「神が持っているいのち」として、**罪のないいのち**のことで、これがクリスチャンとノンクリスチャンを決定的に分けるところです。ノンクリスチャンの多くはクリスチャンより遥かに自分の能力を磨き、発揮し「**完全に出し切るいのち**」の人生を歩んでいます。自分を褒め、「**必ずできる!**」と自分に言い聞かして能力を最大限に発揮し、驚くべき偉業を達成する人たちも多くいます（金メダルを取る、一代で大会社を設立する、等）。ノンクリスチャンにとっては一回限りの人生ですので全力投球しようとするのも当然でしょう。その為に夢中になり知らず知らずに他人を蹴落としてしまうことがあるのも、ある意味無理ないことなのかも知れません。新約聖書には、イエス・キリストが、天国が保証されているクリスチャンと比べて「**抜けめなく生きる**」ノンクリスチャンを褒めているところがあります（ルカ 16 : 8）。

しかし、このもう一つの面である「**罪のない完全ないのち**」の面だけは、ノンクリスチャンはまだ創造者なる神の前に解決ができていません。その結果、最大限に出している「**いのち**」なのですが、「**質**」においては神の前に劣るもので、神に「**良し**」と認められない（＝天の御国には入れない）ものなのです。別の言い方をすれば、正式に「**罪に打ち勝つ力**」である**ご聖霊**を心に頂いて生きることができていないということです。それで、**自分の力**で罪に打ち勝つよう努力しますが、神には受け入れられない**自己満足のレベル**で終わるか、**罪の力に屈服**してしまうのです。

クリスチャンが洗礼を受け日曜礼拝を守るのは、上記で説明してきたように、二つの「**勝利の生活**」を少しでも送ることができるようになるためです。ぜひ「**隠れクリスチャン**」のままではなく、近くの教会に行き、クリスチャン（**キリストの弟子**）になることをお勧めします。

さて、ここからはクリスチャンになることを真剣に考えてみたい方や初心者クリスチャンの方へ、もう少し説明を加えたものです。そのほか方々は次の「**天に宝をたくわえるため**」の説明を読むことをお勧めします。

聖書は「**霊的勝利の生活**」と「**实际的勝利の生活**」を明確に区別していません。それで、私たちクリスチャンは、時に、「**霊的勝利の生活**」を強調して、「**实际的勝利の生活**」に重きを置かず、場合によっては、それは不必要とさえ感じてしまうことがあります。つまり「**霊的勝利の生活**」だけが天国に入る道と理解し、この世での幸せや成功は全くか、殆ど意味がないと感じてしまうのです。そして、意外にも、私もそうでしたが、多くのクリスチャンが「**实际的勝利の生活**」の存在と、その重要性と、それがこの世の成功と関連性を持つことに気付いていません。私も長いこと気付いていませんでした。米国の宣教師に信仰を育てられたのに、米国で聖書を学び、米国のクリスチャンたちの生き方を見るまでは明確に分かっていませんでした。

キリスト教の教えを現す表現に「**神・罪・救い**」があります。近年、神学校などはこれに「**完成**」を加えて「**神・罪・救い・完成**」として、聖書は「**实际的勝利の生活**」を通して



クリスチャンが世の中で輝くことも重要視していることに気づき始めています。実は「**神・罪・救い**」でも十分なのですが、「**救い**」に「**靈的勝利**」と「**實際的勝利**」の両面があることに長い間気付いていなかったのです。それで「**神・罪・救い**（＝**靈的勝利**）」と理解されていました。しかし、これに「**完成**」を追加して初めて、「**神・罪・救い**（＝**靈的勝利と實際的勝利**）・**完成**」と、「**實際的勝利**」の存在が見えるようになってきたのです。

「**靈的勝利の生活**」は確かにとても大切です。しかし、「**聖書全体**」（**旧約聖書**と**新約聖書**）をよく見てみると、**靈的勝利**と**實際的勝利**は切っても切れないものとして教えていることが分かってきます。つまり、両方とも同じように強調されているのです。**旧約聖書**は**實際的勝利**を強調しているので、**旧約聖書**を經典とするユダヤ人は特に「**實際的勝利の生活**」を強調して来ました（例：**イエス時代の宗教指導者の物欲主義**、**現代ユダヤ人の富豪者**、**等**）。**新約聖書**は「**靈的勝利の生活**」を強調しています。そしてクリスチャンは**新約聖書**をよく用いますので、どうしても「**靈的勝利の生活**」を強調してしまうのです。

**初代教会**は迫害の中（**逆境**）と差し迫るキリストの再臨待望の中で信仰生活を送りましたので、当然「**聖い生活**」に重きを置きました。彼らにとっては世の中での成功は殆ど意味がありませんでした。それが**新約聖書**に反映されています。しかし、「**聖書全体**」では、**靈的勝利**と**實際的勝利**は切っても切れないものなのです。そして現代の日本のように迫害のない「**順境**」の時代にはこの二つのバランスがとても必要です。大病や身体障害やその他多くの不幸は「**逆境**」と見る事ができるので、現代の全ての人が「**順境**」の時代を生きているとは言えませんが…。

米国には日本では例を見ないほど**靈的勝利の生活**を送っている素晴らしいクリスチャンでありながら、信じられないほど物的にも豊かなクリスチャンがいます（**實際的勝利**）。しかも、数えきれないほどいます。**靈的勝利**と**實際的勝利**のどちらも得ている生き方の例です。米国にも多くの問題（罪）があり、聖書が教える「**神の国**」からはまだほど遠い国ですが、今日比類なき世界の大国となり、世界をリードし、多くの面で祝福された国となっている理由の一つにはこのバランスがあるからだと感じています。今日の韓国の祝福も同じかもしれませぬ。

このバランスのとれたクリスチャン人口が増える割合に比例して国は神の祝福を受けると言っても、決して過言ではないでしょう。ちょっと言い過ぎになるかもしれませんが、クリスチャンの子供たちが中学や高校で成績が最優秀とか、有名大学を首席で卒業しやがてノーベル賞をもらうなんてことは、聖書の教えから見たら全然不思議でもないのです。そう言っている私は、残念ながら、これらの成功からはほど遠い道を歩んでしまいましたが…。でもまだこれからでも挽回可能です。これが内住の「**ご聖霊の力**」です。

イエス・キリストは弟子たちに「**世の光となりなさい、地の塩となりなさい**」と命令しました。これは「**靈的勝利の生活**」と「**實際的勝利の生活**」の両方を指して言っています。「**永遠のいのち**」を「**完全ないのち**」として発揮できているクリスチャンは、**靈的勝利**の

面でも**实际的勝利**の面でも「**世の光**」となり「**地の塩**」となるはずなのです。もし「**世の光となりなさい、地の塩となりなさい**」を**霊的勝利**の面のみとして理解しますと、道徳的に「**世の光、地の塩**」となるのだと、意味が狭まってしまいます。そうすると、**实际的勝利**の面に力を入れずに生きてしまいやすくなります。

もし私たちクリスチャンが**霊的勝利**の面と**实际的勝利**の面の両方で「**世の光、地の塩**」として輝いておらず、そんな輝いていないクリスチャンの集り（教会）を見て、ノンクリスチャンたちが教会に「**何の魅力もない**」と感じるとするなら、意味を狭めてしまっている私たちクリスチャンの側にも問題があると言えるでしょう。いつしか「**霊的勝利の生活**」にのみ全力を費やし、それがなかなかできない罪深い自分を見て少しずつ喜びを失い、知らず知らずに悩み苦しむ生き方だけが強く表に現れてしまっているのです。クリスチャン生活が殆ど苦痛なだけなら「**輝け**」と言っても所詮無理なことです。「**实际的勝利の生活**」とのバランスが取れて初めて「**霊的勝利の生活**」が可能になるのです。

実は、小さい頃から堅い宣教師たちに教えを頂いた私は、長い間、苦痛だけのクリスチャンの一人でした。宣教師たちはみんな素晴らしい方々でしたが、「**霊的勝利の生活**」を大変強調する堅い姿勢を持っていましたので、私は、世の中の成功は「**罪**」を犯すことになるのだと勘違いして生きていました。神学校での学びを含め、長年かかってようやく**聖書全体の教え**が分かるようになり、「**实际的勝利の生活**」とのバランスが取れて初めて「**霊的勝利の生活**」が可能になることを知り、今は大いに解放されて生きています。

聖書は確かに **100点**（満点）取る**信仰生活**を教えています。**100点**以外の点数はないようにも感じます。これを「**霊的勝利の生活**」だけに当てはめると信仰生活は苦痛になります。「**实际的勝利の生活**」とのバランスをとって理解すると聖書の言わんとする意味が分かってきます。例えば、苦勞して明確に十分幸せな人生を確立・獲得した親は自分の子供に「**適当にやれ**」とは言いません。苦勞しても苦しんでも自分のレベルかそれ以上になるように励まします。その素晴らしさを知っており、自分の子供にもその素晴らしさを味わってほしいからです。

実は聖書の神も同じです。神は人間一人一人に、この地上で心も身体も物的生活の全ての面で、その人が持てる最高の人生（**100点**の人生）を歩んで欲しいと願っているのです。そして神は誰よりもその素晴らしさを知っているのです。神は「**適当にやれ**」とは決して言いません。又、「**その程度で良いだろう**」とも言いません。ご自分の愛する「ひとり子」を犠牲にしなければならなかったほどの「**罪の力**」も知っておられるからです。

聖書の解釈は基本的に自由ですので、**霊的勝利**の面と**实际的勝利**の面のどちらかを強調したり、逆に又どちらかを軽んじたりすることがあるのです。私は長いこと**霊的勝利**の面だけを強調するクリスチャンでした。しかし日本にも、多くのクリスチャンが**霊的勝利**の面と**实际的勝利**の面の両方で「**世の光、地の塩**」として輝いています。そのような人が増えて日本がもっと神の祝福を頂くことを望んでいます。ぜひあなたもクリスチャン（キリス

トの弟子) となって大いに輝くことをお勧めします。

ところで、クリスチャンの聖書理解には**实际的勝利の結果**だけを強調する問題もあります。それは、クリスチャンになったら**必ずいつも健康で成功し、物質的にも豊かな人生を送ることができる**と断言的に強調する教えです (**ヘルス・ウェルスの信仰**)。そのようにならないクリスチャンには「**信仰が薄いからだ**」と激励したり責めたりします。聖書には確かに信仰を持ったら健康で豊かな人生を送ることができると思わせる箇所や表現が数多くありますので、仕方のない面もあります。

しかし、聖書全体をよく見、良く学ぶと、神は確かに、クリスチャンを「**神の子どもたち**」として特別に守り導いて下さる面はありますが、必ずしも健康と富と成功を完全に保証しているではありません。クリスチャンであるがために多くの苦しみ (**迫害や困難**) と苦痛・苦難を通るとも教えています。健康で豊かなクリスチャン生活の約束は、実は多くの場合、各クリスチャン個人の努力による「**实际的勝利の生活**」がその根底にあるのです。「**实际的勝利の生活**」を無視して神様から健康と富だけを求めて教会に来ようと思うようでしたら、やめておいた方が良くもかもしれません。クリスチャン生活は決して楽でも生易しいものでもありません。

「**クリスチャンが洗礼を受け教会の礼拝を毎週守る**」のは、以上書いてきたように、創造の神の祝福に積極的に与ることと、「**霊的勝利の生活**」と「**实际的勝利の生活**」を得て、心も身体も、更に可能なら物的にも十分に祝福に満ちた人生を歩むためなのです。しかも、これらのこの地上の祝福に加えて、各自の「**霊的勝利の生活**」と「**实际的勝利の生活**」に応じて「**天の報い**」の内容も決まってくるのです。何と、地上と天と「**二重の祝福**」が与えられるのです。この二つの生き方のバランスが次の学びになる「**天に宝をたくわえる**」ことと繋がってくるのです。

人の「**罪**」はこの世界に身体障害や不治の病など最も大きな悲劇をももたらしました。多くの人々がこれらの悲劇と不幸で苦しんでいます。しかし、「**神の救い**」はこれらの悲劇と不幸の中にあっても力強く解決を与えてくれています。星野富弘さんの生き方はその最も素晴らし例ですが、やがて完成する「**天の御国**」においては、更に驚くべき事実と約束が用意されています。ぜひ次の機会に「**天に宝をたくわえる**」もお読みください。